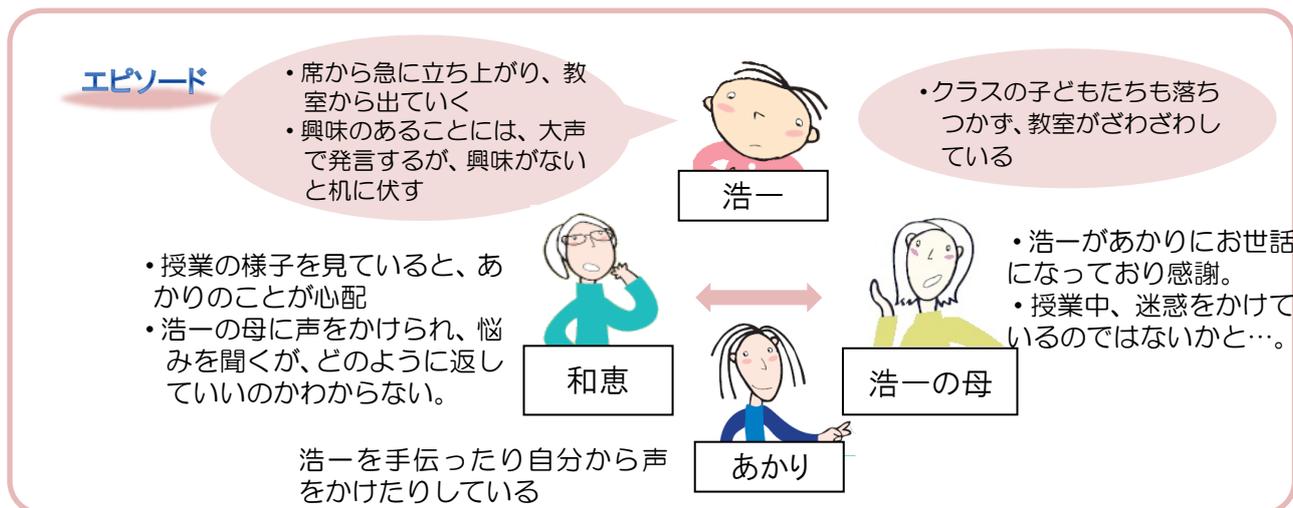


# 指導事例

## 3-7 「ともに歩む」

授業中、周りとは異なる行動をとる子どものエピソードを通じて、子どもに課題を抱え困っている親の思いや悩みについて考えたり、自分の子どもが他の子どもたちと一緒に成長することへの、親としての支援について考える。



### 活動の流れ (70分)

時間	活動内容
10分	<b>◆ 導入 ( P2 )</b> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ あいさつ・自己紹介</li><li>▶ 参加型学習のルール確認</li><li>▶ アイスブレイキング・グループ分け</li><li>▶ 教材の読み合わせ</li></ul>
50分	<b>◆ グループワーク ( P3~5 )</b> <ol style="list-style-type: none"><li>01 あなたなら、浩一さんのお母さんにどのように言いますか？</li><li>02 授業参観で、浩一さんのお母さんはどんな思いだったのでしょうか？</li><li>03 あなたなら、あかりさんとどのようなことを話しますか？</li></ol>
10分	<b>◆ ふりかえり ( P6 )</b> <p>集団の中で周りとは異なる行動をとる子どもがいる時、あなたはどのようにしようと思いますか？</p>

# 導入



## あいさつ 自己紹介

### 進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは」  
「これから、「子育て」について、みんなで話しましょう」  
「わたしは、……」

## ルール 確認

### 参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります」

- ①「参加」: 講座に参加するために、自分の考えを話してもらう。話したくないことはパスもできる。
- ②「尊重」: 人が話しているときはしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。
- ③「守秘」: この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話してもらうため、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。
- ④「時間」: 一人あたりの発言時間を守る。参加者全員に話してもらうために、制限時間内に話を納めるようお願いする。

## グループ 分け

### グループをつくる

「5~6人のグループをつくりましょう」

- ・アイスブレイキングをしながら、グループ分けをする。
- ・各グループは、老若男女さまざまな人が入るようにする。
- ・机やイスを動かしてグループごとの“島”をつくる。
- ・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

## 場面設定等 を読む

### 登場人物の説明、場面設定を読みあげる

「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。」

「グループに分かれ、役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

- ・まず、一人ひとりで黙読をしてから読み合わせるのもよい。
- ・朗読はグループごとでもよいし、進行役が全体の場で読み合わせでも構いません。

## 01

## あなたなら、浩一さんのお母さんにどのように言いますか？



リーダー

エピソードを読んでどのように感じられましたか？似たような経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんね。

さて、皆さんが和恵さんなら、浩一さんのお母さんに声かけられて、どのように対応されますか。エピソードの「・・・・」のところを考えてみましょう

## 予想される意見



## 何も言えない、それは、

「いきなり、声かけられて言葉が見つからない」

「浩一さんのお母さんのことをよく知らない」

「気になることはいっぱいあるけど、どう言っているかわからない」

「困っているみたいだけど、浩一さんのことがよくわからない」

「お母さんがしっかりしないからだけど、そんなこと言えない」

## といえ、相手が傷つかない程度に、

「うちの子も一緒ですよ。まだまだ子どもで！」

「あかりからは、特に何も聞いていないし、迷惑ってことはないと思いますよ」

「男の子って幼いから、先生や周りにかまってほしいんじゃないの」

「転校してきたばかりで、まだ慣れないんじゃないですか？」

「浩一さんだけじゃないし、先生がしっかりしないといけないのよね」



## ちょっと考えてから、

「浩一さん、きっと落ち着かない理由があるんじゃないのかなあ。お話し聞いてあげたらどうですか！？」

「先生に相談してみたらどうですか？私も、家に帰って、あかりに聞いてみますね」

「前の学校では、どうでしたか？気になることはなかったですか？」

「お母さん、一人で悩まないでね！また何か気になることがあったら声かけてください」



## 話し合いでの留意点！

- ① 話し合いの導入として、和恵さんの立場、気持ちになって考えてみます。参加者にイメージしてもらうために少し時間を置くのもいいかもしれません。
- ② 浩一さんのお母さんに声をかけられた直後と、あいさつを交わしてからなど、わけて考えることもできます。いきなり、初対面の人に声をかけられたという設定なので、自分の思っていることと言っている言葉が、必ずしも一致しないこともあると思います。
- ③ 「困った状況だわ」など、心のどこかにある本音の部分を引き出し、話し合いを発展させることで、大切にしたいことへの気づきに近づきます。

## 浩一さんのお母さんの思いを考えてみましょう！



リーダー

子どものことで、不安や悩みを感じたりすることは誰にでもあることですよ。

それでは、授業中の浩一さんの様子を見て、お母さんはどんな思いだったでしょうか？想像してみましょう。

## 予想される意見



### 恥ずかしいので見てられない (状況を受け入れられない)

「周りの保護者からの目がとても気になるから早くおとなしく座ってほしい」

「落ち着きがないのはわかっているのに、どうして先生をはじめ学校側はもっと配慮してくれないのかしら」

「迷惑をかけっぱなし！3年生になったんだから、もう少し落ちついてほしい」

「家で、もっと厳しく叱らないと！」



### この場は、見守るしかない (状況は受けとめている)

「最近引越してきたばかりで落ち着かないのかな」

「あかりさんをはじめ優しい声掛けをしてくれているお子さんもいる。ありがとう！」

「周りの迷惑になっているし、このままではいけない！先生にきちんと相談しよう」

「家で浩一ときちんと話そう。私をもっとしっかりしないと！」

「周りの皆さん、ごめんなさい！」



### ではどうすれば良いのでしょうか？

「学校や先生に具体的にはどのような配慮をしてもらいたいのですか？」

「浩一さんは、なぜ、そんな行動をするのでしょうか。何か原因があるのでは？」

### 見守るしかないけれど…

「後で、和恵さんに何を求めたのですか？」

「クラスの様子や周りの反応は気になりませんか？」

「先生やお子さんとはどんな話をしますか？」

「一人で、抱え込んでいませんか？」



## 話し合いでの留意点！

- ① 浩一さん母の思いについて、いろいろな視点で意見がでると思います。浩一さんの母と同じ立場にある（経験をもつ）人もいるかもしれませんが、誰もが安心して発言できるよう心がけましょう。
- ② 課題を抱える子どもをもつ保護者の立場に立って考えることで、自分ができるとは何だろうか最後のワークにつながります。
- ③ 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介したり、「では、どうすれば良いのでしょうか？」のような考えを揺さぶる発問をしたりすることで、より話し合いが深まります。



ありがとうございました。親として「自分の子どものこと」「その子を取り巻く環境」等、考えることがたくさんありますね。

## あかりさんについて考えてみましょう！ あなたならあかりさんとどのような話をしたいですか？



リーダー

次に、あかりさんについて考えたいと思います。参観の様子や浩一さんのお母さんから相談を受けて、和恵さんには気になることがいっぱいあると思います。あなたなら、あかりさんに何を聞きたいですか？また、何か伝えたいことはありますか？

### 予想される意見



#### 聞きたいこと

「最近、学校はどう？」  
 「普段学校で、浩一さんはどんな様子なの？」  
 「担任の先生や他の先生は、浩一さんにどのように対応しているの？」  
 「あかりは、浩一さんのことをどう思っているの？」  
 「他の子どもたちは、浩一さんのことで何か言ってる？」  
 「浩一さんって、仲のいい友だちいるの？」  
 「普通の授業も、あんなにざわついているの？」  
 「先生の話をしっかり聞くことができる？授業に集中することができる？」

#### 伝えたいこと

「あなたのこと、いつも見守っているからね！」  
 「浩一さんが、困っているようだったら手伝ってあげよう！」  
 「浩一さんがしてはいけないことをしていたら、声かけることができる？」  
 「周りの子が、浩一君の悪口を言ったりいじめたりしていたら、止められる？それが無理なら先生に相談できる？」  
 「授業中、勉強ができないようだったら、お母さんにすぐ言って！」  
 「浩一さんは問題がありそうなので、関わらない方がいい！」  
 「他の人に迷惑のかかるようなことはしないでね！」



### 話し合いでの留意点！

- ① あかりさんに聞きたいこととあわせて、エピソードから推測できること（浩一さんや学校のことなど）、また、なぜそれを聞きたいのか、考えてみましょう。
- ② あかりさんに伝えたいことは、自分の子どもがどう育てほしいか、学校生活でどのように学んでほしいのかのメッセージでもあります。いろいろな視点で考えてみましょう。
- ③ 浩一さんのもつ課題を、断片的に決めつけることなく、様々な背景をふまえて考えてみましょう。（資料：気になる行動をとる子どもの背景の一例参照）



大人には理解できてなくても、子どもたちはその改善策に気づいていることもあると思います。あかりさんは浩一君の良き理解者なのかもしれませんね。

# ふりかえり

集団の中で、周りとは異なる行動をとる子どもがいる時、あなたはどのようにしようと思いますか？



リーダー

ここまで、浩一さんの母、あかりさんのお母さん、さらにあかりさんの立場に立って考えてきました。

では、最後に、学校等集団生活の中で、周りとは違う言動をする子どもがいる時、あなたはどのようにしようと思いますか？考えてみましょう

## 予想される意見

自分の子どもへ 	学校へ 	保護者との関係 
「子どものことに大人が口をはさみたくないの、子どもにまかせて見守っておく」 「子どもが本当に困ってきたら何か言ってくるだろうから、それまでは待つ」	「特に口は出さず、学校にまかせておきます」 「他のお母さんに頼んで何とかしてもらおう」 「担任の先生に信頼がおけるかどうかで変わると思う」	「他の子どものことなので、当該の保護者には何も言わずそっとしておく」 「周りの保護者から声かけられても、話を合わす程度にして関わらないようにする」
「子どもの話を聞きながら、気になることがあれば、子どもにアドバイスしていきたい」 「子どもの態度や持ち物にも気にかけて何か変化があったら聞く」	「自分の子どもに何かあったら言いに行くかも」 「事態が深刻化してきたら、子どもからの話をふまえ、学校に状況を聞きにいききたい。」	「当該の保護者から相談を受けたら、話を聞いて自分がわかる範囲でアドバイスしたい」 「相手の保護者との関係により対応は変わると思う」
「子どもや周りからも情報をもらい、子どもと一緒に自分がとるべき行動について話し合っていきたい」 「こういう時はこうしなさいとはっきり言う」	「大きなことになる前に、学校に状況を聞きにいき、何らかの対応を依頼する」 「保護者同士で、学校の様子を見に行く」	「おせっかいな人と思われるかもしれないけど、当該の保護者の相談相手になったり子どもの課題と向き合ったりしたい」 「親がきちんとしつけなさいと、説教してやりたい」

## 😊 ふりかえりのポイント！

- ① 「どのようにしようと思いますか？」と聞いていますが、必ず何らかの行動をとらなければならないわけではありません。何かしたい思いはあるけど現実には無理であるということもあります。いろいろな場面を設定し考えてみるのもいいと思います。
- ② ふりかえりでは、ここまでの話し合いをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てを振り返ることになります。
- ③ 参加者どうしがふれ合い、子どもの困り感に向き合う親のエンパワメントを図るとともに、課題を抱える子どもやその保護者について理解を深められたか、他の参加者の感想を聞くことで、改めて自分の考えを整理していきます。

# こんな時どうする!?



参加者の意見を「尊重」して進めていたのだけど、このような意見が出たり、こんな状況になったら、どうしたらいいのかしら!?

- ◆ 「子どものためにも、支援学級に入る方がいいのではないか!」の意見で流れてしまう。
- ◆ 発達障がいと決めつけて、話し合いが進んでしまう。



いろいろな角度から（視点を変えて）、意見を出し合ってみましょう。浩一さんが、発達障がいかどうかでみていくのではなく、子どもが成長するためにできること、どのように支えるかで考えてみたらどうでしょう!

- ◆ 浩一さんのお母さんと同じような立場や、これまでに似たような経験のある参加者から、「実は、私の子どもも・・・」と、発言があって、話しにくい、気まずい雰囲気になる。



困っていることや悩んでいることを、そのまま話すことができるのは、その場が話しやすい良い雰囲気になっているからだと思います。リーダーも参加者も、個々の思いに寄り添いながら進めていきましょう。

子育てで、自分が課題に思っていること、困っていることを互いに出し合うなど、不安が少しでも軽くなったり、参加者の気づきにつながるような流れをつくってみたらどうでしょう!?

参加者がエピソードと似たような経験があり（または現在その状況にあり）、

- ◆ 個人攻撃に発展する。
- ◆ 学校に批判的な意見が出る。
- ◆ 自分勝手な意見ばかり出る。



ファシリテーターとして同調せずに聞き受けましょう。違う意見をもつ参加者もいるはず。立場を変えた視点や違う切り口で問いかけるなど、感情的な意見に流されたり、周りが発言しづらい雰囲気にならないよう工夫しましょう。本音を出すことと建設的に考えることは必ずしも一致しません。参加者がほっとできる、気持ち軽くなる話題の振り方、進行が大切だと思います。「周りにある様々な違いについて」など、人権の視点で考えてみるのもいいかもしれませんね!

## ● ふりかえりの言葉の例

今日は、「課題を抱える子ども」に関わるエピソードをふまえ、いろいろな角度、視点で話し合ってもらいました。親の思いや悩みを自分のことのように考えられたことで、また自分の子どもに伝えたいこと、望みたいことを考える中で、様々な気づきもあったのではないのでしょうか。

皆様の周りにも、多かれ少なかれ課題を抱えているお子さんが、いるのではないかと思います。悩みや課題を抱える子どもは、時として、集団生活の中ではなじみにくく、周りとは違った行動をとることもあります。その時、あなたは何を思うのでしょうか。

子どもは、決して一人で成長していくわけではありません。もちろん家庭の中で、そして学校等の集団生活の中で、周りに関わりながらともに育っていきます。子どもの育ちを親としてどのように支えていくか、親も子どもと一緒に考え成長しながら、歩んでいけたらいいのではないのでしょうか。

加えて、子育てに不安を抱かない人っていませんよね。親が一人で不安を抱え込んで子育てに当たることがないよう、周りとのつながりを大切にしていけるよう理解し合いながら、元気になりながら、親同士が寄り添い歩いていけると素敵ですね。

我々ができることって何でしょうね。今日の話し合いを持ち帰っていただき、「ともに歩む」ことを、ぜひいま一度考えてみてください。



浩一

## ● 参考資料と人権への配慮等

本教材は、授業中に不適応な行動をとる子どものエピソードを題材にしていますが、その要因として、「■ 気になる行動をとる子どもの背景の一例」のような背景が考えられます。

「不安や緊張が強い場合」「発達障がいがある場合」

「愛着に課題を抱える場合」「心身が常に、危険にさらされている状況にある場合」

エピソードでは、浩一さんの課題の背景がわからない状況で進行していきますが、参加者から、「発達障がい」に係る発言も予想されます。学校には、「■ 何らかの支援を必要とする子ども」が在籍していることもふまえ、親が「発達障がい」について、考えてみる時間をもつことも大切なのではないのでしょうか。その際、単に子どもが「発達障がい」かどうかでみていくのではなく、その子ども自身が困っていることを理解し、いいところを丁寧に見ていき、苦手を強みに変えていけるよう応援していくこと、あなたの存在が、子どもが成長する（課題を改善する）環境要因の一つになっていくことを確認していきましょう。

さらに、「周りにある様々なちがいについて」や「人と人とが理解し尊重し合うことについて」など、人権について考える時間を結びにとることにより、より一層考えが深まることになるのではないのでしょうか。

本教材に限らず親学習を進めるに当たり、ファシリテーターとして偏見をもたない、決めつけて取り扱わないことも含め、人権を相互に尊重しあう表現等に心がけてください。聞いていやな思いをする、または誤解をうけるような言葉遣いは、参加者ともども留意していきましょう。